

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		自治区・老人会以外にも幼稚園・小学校への取り組みを拡大深化させていきたい。	小学校福祉活動クラブとの連携による高齢者交流会や認知症を知る啓蒙活動を毎年常態化する。	模擬体験セットによる障害者及び近接交流による高齢者交流会を年2回以上、小学校にて開催する。	12ヶ月
2		推進委員会より、AEDを設置したのだから定期的なAED講習を半年に1回ぐらい実施したらどうかの意見あり。	AED交流を年2回程度、地域住民も含めて会議の中で勉強していきたい。	ホールを活用して消防の協力もおおぎ、AED講習活動(時間20~30分)をグループホーム内で実施していく。	12ヶ月
3		28年度の認知症サポート講座が他の家族法人与自然と協力して「介護職員初任者講習」講座と重なり、日程、講師等の調整が必要。	公民館を借りて実行できないか計画する。パートナー講座のほか、介護術教室等も含め計画目標をたてる。	担当の包括支援センター、自治区、老人会等の日程調整と公民館との協議を行うため、専任担当を置き、イベント計画のつもりで取り組む。	12ヶ月
4		定期的家族会の出席率やメンバーの固定化。	土日の家族見舞い訪問等に主軸を変え、地域イベントや自社で行う交流会へも積極的に参加を促し、面談機会回数のアップを図る。	年内計画表を作り、家族に渡し、家族参加OKの日時に対して、直前の参加さそいなど、積極的なアプローチの実行。「会って話すことから」をキャッチフレーズに取り組む。	12ヶ月
5		職員間の認知症に対する知識、ケア方法等のバラツキや介福士資格者へのフォローアップ研修の不足。	専任の全社の総括する教育指導者を誕生させ、カリキュラムや実施方法を改組改善皆層に分けて再教育を実施。	指導書、評価書の作成とOJT計画を個人毎に作成し、又有資格向け(介福士)フォローアップ研修を年2回集合研修で実施したい。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。